

令和7年度 松田町総合計画審議会 <第3回> 議事要旨

日 時：令和8年3月26日（木） 15時00分から17時00分まで

場 所：松田町役場4階 大会議室

出席者：12名（名簿順）

鍵和田委員、山岸委員、山崎委員、岩田委員、陶山委員、鈴木委員

小澤委員、矢野委員、古館委員、吉川委員、太田委員、足立委員

町：田代副町長、野崎教育長、鈴木参事兼政策推進課長兼定住少子化担当室長、

早野参事兼総務課長、遠藤参事兼観光経済課長、鍵和田安全防災担当室長、山

岸税務課長、堀谷町民課長、宮根福祉課長、渋谷子育て健康課長、柳澤まちづく

り課長兼駅周辺事業推進担当室長、鍵和田環境上下水道課長、渋谷議会事務局長

椎野教育課長、遠藤生涯学習推進課長

事務局：政策推進課（鎌田、三嶽、松田）

次第

1. 委嘱状交付

2. 会長あいさつ

3. 副町長あいさつ

4. 議事録署名人（2名）の選出

議事録署名人：鈴木委員、矢野委員

5. 議事

（1）次期松田町総合計画の概要について

（2）策定体制

（3）策定スケジュール

（4）タウンミーティング開催結果について

（5）町民アンケート調査結果について

（6）職員アンケート調査結果について

6. 閉会

資料

資料1：次期松田町総合計画の概要について

資料2：次期計画策定スケジュール

資料3：タウンミーティング開催結果報告書

資料4：町民アンケート調査結果（概要版）

資料5：職員アンケート調査結果（概要版）

質疑記録

議事（１）～（３）

古館会長：

次期計画の策定は現行計画の評価と並行して進めるのか。

事務局：

年度末評価と中間評価を並行し、同時開催の形で行う。

議事（４）～（６）

太田委員：

タウンミーティングや町民アンケートの参加者の年齢層が高齢者に偏っているように感じる。単純に結果を集めると、高齢者の意見ばかりが強くなってしまう。

事務局：

タウンミーティングは高齢者の参加が多かったが、中には若い夫婦や子育て世代の方にも参加していただき、幅広い意見を収集した。

町民アンケートについては、人口比に合わせていることから高齢者は多くなるが、クロス集計等で年代別の傾向を分析し、特定の層に偏らないよう配慮する。

古館会長：

資料４の４ページ目に示されている「重要度」について、前回の「必要度」から言葉を変更しているが、その結果生まれた具体的な差はあるか。

事務局：

「必要度」から「重要度」へ言葉を変更したのは、それぞれの施策を「自分に必要かどうか」ではなく、「町にとって重要かどうか」という視点で考えてほしいという理由があったため。しかし、その結果想定外に影響が出てしまった。

鈴木副会長：

タウンミーティングは参加者が少ない。どのように周知したのか。

事務局：

広報まつだ、自治会回覧板、松田町公式ホームページ、LINE 等で呼びかけた。また、自治会長にも集會施設をお借りする際にご協力をお願いした。参加者が少ない会場もあり、課題だと感じている。今後の周知方法については、より多くの声が拾えるよう工夫していき

い。

鈴木参事兼政策推進課長：

以前までは松田地区と寄地区1ヶ所ずつでタウンミーティングを実施していたが、家から会場までが遠い人が行きづらいこともあり、今回は15会場で実施した。

太田委員：

以前、社会福祉協議会が一人暮らしの方100人を対象にアンケートを実施した。その結果もぜひ確認してほしい。

事務局：

総合計画は町の最上位の計画である。内容の検討にあたり、それらのアンケートについても、担当課に確認のうえ計画へ反映していく。

鈴木参事兼政策推進課長：

中学生アンケートも実施する。様々な立場の方の意見を聞いて、計画を策定していきたい。

古舘会長：

資料4の7ページの、町政への関わり方に関する質問について、「町政のことは議員や町、専門家にまかせたい」が40%以上など、町政への関心が少ないことがわかったが、どこの地域もこのようなものなのか。

事務局：

どの地域にも同様の設問があるというわけではないが、地域性が出やすい質問である。

山崎委員：

買い物する場所が課題となっているが、店を作れば良いというものでもない。みんなが気軽に買い物できる場があると良い。

どの自治会も役員の成り手がいない。自治会に入らない人や抜ける人もいる。コロナ以降、葬儀を身内でする人が増えた。以前は組ごとに役割を決めて葬儀を行っていたが、それが無くなり、自治会に加入しなくなった。人が少なく高齢化している。

古舘会長：

ここからは各委員1人ずつにお話しを伺う。

鍵和田委員：

自治会役員のなり手がいない。しつこく誘うと人間関係も悪くなってしまう。
ゴミは自治会に入っていなくても出すことができるのか。

鍵和田環境上下水道課長

基本的にはどなたでも利用することができる。エリア分けがされているので、そのエリア内の方なら問題ない。

鍵和田委員：

タウンミーティングで集まった内容について、回答は出すのか。

事務局：

既に取り組んでいるものもあるが、長期間かかるものもある。そういったものは次期総合計画に入れ込んでいく予定のため、そのことを周知していきたい。

山岸委員：

デジタル化が進むと、便利になる一方で、取り残される人もいる。その方々に対して、どの程度重きを置き今後取り組むのか。

宮根福祉課長：

現在はやっていないが、社会福祉協議会でスマホ利用講座を開講しており、これで周知していけるよう取り組んでいる。しかし、仕組みや操作が複雑化しており、1回、2回の参加で理解するのは難しい。定期的開催する必要がある。

鈴木参事兼政策推進課長：

SDGsの「誰一人取り残さない」という視点も含めて進めていきたい。

山岸委員：

取り残される方が高齢者ばかりにならないように進めていただきたい。

山崎委員：

自治会関係については、4月、5月ほぼ毎日何かしら連絡がある。現役世代だと自治会長はできないというのは理解できる。

役場は失敗を隠さず認め、改善に努める姿勢を持ってほしい。役場も自治会もこういったことを心掛けると上手くいくのではないか。

岩田委員：

民生委員の欠員が増加している。各自治会から選出された体制の方が皆安心して暮らすことができるのではないか。

陶山委員：

商工振興会には昨年は 450 人いたが、現在は 235 人にまで減少している。商店も増えていない。しかし、スーパーを誘致するだけで良いとも言えない。資料 4 の 2 ページでは住みよい理由に買い物は入っていない。

松田町は周辺地域との交通の便が良いため、人が集まる一方、出ていきやすいのも特徴である。祭りの時期の 1・2 カ月は人が集まるが、残りの 10 カ月は人が来ないという現状を改善する必要がある。人の流れが松田町に入ってくるような取り組みが必要。

遠藤参事兼観光経済課長

町に人を呼び込む施策（関係人口を増やす取り組み）は観光に限らず行っている。庁内でも何ができるか考え、計画に反映できるようにしていきたい。

小澤委員：

中学校では掃除ボランティアがある。以前は 1 クラス 10 名程度参加者がいたが、今年度は学年で 2～3 人、全校でも 7～8 人程度だった。子どもと関われる機会の発信ができればと考えている。

ゴミ処理場が変わるという話を聞いたが、どのようになっているのか。

鍵和田環境上下水道課長：

現在、中井町、大井町、松田町の 3 町で「足柄上衛生組合」という組合を作って、燃えるゴミについては大井美化センター、燃えないゴミについては中井美化センターという形で処理をしているが、建物が老朽化により、これを機に広域的に広げて運営した方が効率的ではないかという話があった。今後は、南足柄市と足柄上郡の 5 町（中井・大井・松田・山北・開成）で一つの施設を運営していく。令和 11 年度に施設が完成し、12 年度から燃えるゴミの処理を開始する予定である。あわせて不燃ゴミについても広域で取り組もうという話があり、令和 9 年度を目途に動き出している。

山崎委員：

共働き世帯にはボランティアの参加は難しい。土曜日など休日であれば集まりやすいが、近年は働き方改革により運動会なども平日に行うようになった。

矢野委員：

4 月から自転車の交通ルールが変更になり、違反すると罰則が与えられるが、自転車の通

路である国道 246 号の山側の枝が伸びていて危ない。川の土手の草は綺麗になっていたの
で、山側の整備もお願いしたい。

4 月からのゴミカレンダーは、曜日ごとの色分けが無くなり見づらくなった。以前のもの
に戻してほしい。

不燃物に関する冊子は毎年配られるが何か変更はあるのか。無いのであれば毎年の配布は
必要ないのではないか。

柳澤まちづくり課長：

山側の整備についても、国道事務所と連携しながら取り組んでいく。

鍵和田環境上下水道課長：

ゴミカレンダーは、以前までは自治会独自のものだったが、今年度からは同一のもの
を作成し配布し、ポスティング作業の必要も無くしたことで、自治会役員の負担を軽減
した。データ版も作成したが、上手く見られない人もいるため、紙版の配布場所（役場、
自治会の集会施設、郵便局、セブンイレブン等）を確保し、フォローしている。来年度
以降の対応については自治会と話し合っていく。

不燃ゴミの出し方は基本的には例年変わらないが、リチウムイオン電池の出し方など、
話題になっているものは見やすくなるようマイナーチェンジをしている。新しくなった
点や特に注意してほしい点はひと目でわかるよう見せ方を工夫していきたい。

鍵和田安全防災担当室：

自転車は歩道を走れなくなる。今週末に、生涯学習センターにて交通ルール改正に伴う講
習会を実施する。

吉川委員：

アンケートからわかるように、若い人は町政に関心が無い。実際、保育園の若手の先生に
町政の話をして、「わからない」という回答が多い。どうすれば関心を持ってもらえるの
だろうか。町の情報は、自分が親になった時に知っておくと良いこともあるのではないか。

日頃見ている子どもたちが、地域とともに育って、ここが「ふるさと」だと思えるよう
になってほしいと思って保育をしているが、コロナ禍からは行事ができず、地域の方との関わ
りが不足している。

今後は保育の見直しをしていく必要がある。自分自身も町の会議に出席し、それを若い先
生や保護者に発信していく必要性を感じている。町にも若い人達にどう伝えていくか、子
ども達がこの町を誇りに思えるような行事のあり方などを重点的に考えていただきたい。

太田委員：

取り残されてしまう高齢者の意見が社会福祉協議会のアンケートにも書かれているので、

確認してほしい。

町民アンケートの調査結果は、第6次総合計画策定時のアンケート調査と同じような結果のため、この期間では何も変化が無かったのかと感じた。総合計画で一度に全てを解決するのは大変なので、この年度ではどの部分を重点的に取り組むのかを決め、そこが8年後のアンケートで数値が動けば素晴らしいことなのではないか。それを目指して皆さんと頑張っていきたい。

足立委員：

自治会にはなり手がいない。自治会長が家に書類を届けてくれた際に、民生委員などに誘われたが、断ってしまい、その際に「つい声をかけてしまい申し訳ない」と謝らせてしまった。しかし、自治会とはできるだけ接点を持ちたいと思っている。退会していく人もおり、問題である。

タウンミーティングは人が少なかった。町民アンケートでは16歳から29歳は町政に関心がないと回答した人も多い。若い世代は今不便無く生活できているので興味が無いのではないか。また、特定の日時に町内の特定の場所に集まるのも難しい。zoomなどで参加できるようにすると、物理的に参加できない人からも意見を聞くことができる。

古舘会長：

自治会役員はなり手がいない。役員をお願いすると辞めたいという人もいる。若手は減っており、考え方も異なる。松田町はSDGs未来都市に選定されているなど、良いところもある。町民も参画しながらみんなで盛り上げていきたい。

わかりやすく、メリハリの利いた総合計画を策定していただきたい。

鈴木副会長：

自治会長に配る書類はまとめて配り、ポスティングは止めて自治会役員が個人的に皆さんとお話できるように回っていただければ退会者は減るのではないか。自治会から抜ける人が増え、社会福祉協議会も会費が減っている。

防災無線の整備をもう一度考えてほしい。地形的に聞き取りづらい場所があるのは承知しているが、SNS等で情報を得るのが難しい高齢者が、松田町で安心して住むことができるよう、何かあったときのため、防災無線は必要である。

閉会